

進捗状況の概要 ※得られたアウトカムを含む構想の実現の観点から記載すること【1ページ】



グローバルリベラルアーツ×リーダーシップ教育×自己変革力

～ 世界で際立つ大学への改革 ～

立教大学

「カリキュラム」の改革、「学生の意識」の改革、「ガバナンス」の改革を強力に推進



「カリキュラム」の改革

中長期アウトカム

自律的・主体的に学び続ける力を育成するカリキュラム

取組みにより得られたアウトカム：

自律性・主体性を涵養するカリキュラム/国際共同学位プログラム/学生の流動化(受入・派遣)/英語運用能力の向上/課題解決力の向上

●グローバル教養副専攻 登録者数の増加

平成30年度以降、登録時期・登録導線等を改善し、登録者数は9,500名と大幅に伸びた(令和2年6月時点)。令和2年度より「Global Leadership」など3テーマを新設し、登録者数増加に向けたコース拡充も進めている(計3コース21テーマに)。令和元年度には第一期生68名が修了した。今後は修了者をロールモデルとする情報発信の強化など、修了者数増に向けた取組みを進めていく。オンラインによる海外体験を認める代替措置を講じ、コロナ禍でも副専攻修了可能な方策も整えた。

●Global Liberal Arts Program (GLAP) の発展

学年進行に伴い英語による開講科目数が増え、他学部学生の英語による科目の履修機会の拡大や、協定校(海外リベラルアーツ大学)からの招聘教員と共同FD研修を実施し、「自律的・主体的な学び」に資する国際的な知見の共有など、GLAPの先導的な取組みを全学の学生・教職員に広く波及している。令和2年度にGLAPは完成年度を迎える。

●国際連携大学院プログラムの拡大

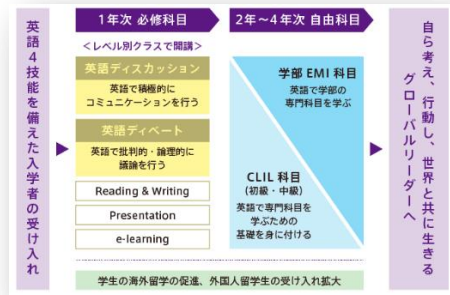
平成28年度の開設以降、4年間で計47名の留学生を経営学研究科で受入れた。令和3年9月から21世紀社会デザイン研究科の参加が決定、新たな英語コース(公共・社会デザイン学)を設置し、留学生の受入れを開始する。

●正規学部留学生対象の新カリキュラム構築

正規留学生受入れ拡大に向け、(1)半年間の日本語集中学習を経て、各学部の既存カリキュラムに進む教育プログラム、(2)英語による授業履修のみで卒業可能な教育プログラムを、新たに構築する(令和4年9月受入開始予定)。

●言語教育改革(新英語教育カリキュラム)

令和2年度より、学部1年次生を対象に「英語ディベート科目(必修)」を導入した。同年新設した外国語教育研究センターで、学部専門科目との接続を強化した、CLIL科目・学部EMI科目の導入を含む、新しい英語教育カリキュラムの構築を、令和6年度の完成を目指し進めていく。



新英語教育カリキュラム

「学生の意識」の改革

中長期アウトカム

異なる背景を持つ他者と協働しながら、課題解決力を向上

取組みにより得られたアウトカム：留学生との積極的な協働/自律的・主体的態度の涵養/学修成果の可視化/学生の流動化(派遣)

●海外プログラム等の拡充

多様な海外プログラムを80以上展開している。「体験」を知識や理論と関連付けて学びを深める「立教サービスマーケティング」、国内においても、海外大学(スタンフォード大・香港大、シンガポール国立大)と合同の英語によるPBL「陸前高田プロジェクト」など、独自性あるプログラムで、海外の学生等と協働する機会を多く創出した。

●eポートフォリオシステムの導入、学修成果ルーブリックの開発

平成28年度より、eポートフォリオシステム「新・立教時間」を導入。令和元年度、本構想で定める「グローバル基幹力(思考力、変革力、共感・協働力)」の修得度を測る「学修成果ルーブリック」を開発し、学生による自己評価を実施した。



立教サービスマーケティング(フィリピン)参加学生

「ガバナンス」の改革

中長期アウトカム

多様な学生、教職員、社会等と協働できる組織力と自己変革力

取組みにより得られたアウトカム：

迅速な意思決定/教職員の多様化・国際化/教務システムの整備・国際化/留学生受入体制の強化/外部評価を踏まえた変革/自主化の促進

●「立教グローバル戦略2.0」の策定と推進

平成30年度、中長期計画「総合発展基本構想」を策定し、国際化に関する中核目標として「立教グローバル戦略2.0」を位置付けた。TGU事業の構想や「Rikkyo Global 24」を発展させた内容として、国際化推進担当副総長を推進責任者とし、確実に取組みを進めている。

●正規学部留学生対象の新入試制度構築

優秀な正規学部留学生を受入れるため、新たなカリキュラム及び入試制度の構築を目指し、令和元年度に教職員によるWGを設置し、全学的な検討を開始した。新入試制度では、年間を通じた出願期間の設定(ローリング・アドミッション)や、現地統一試験スコアの活用など、多様な国・地域から渡日せず出願可能な入試制度を計画している。(令和4年9月受入開始予定)

特筆すべき成果（グッドプラクティス）【1ページ】



立教大学

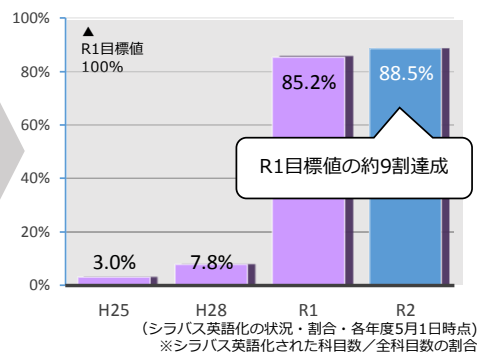
「カリキュラム」「学生の意識」「ガバナンス」 の3つの改革の推進により成果を上げた項目

特に成果が上がった項目①

シラバス英語化 (TGU共通指標)

「成果を上げた具体的な取組」

- 従来は英語による科目のみ、英文シラバスを作成。
- 令和元年度より、国際化推進担当副総長のリーダーシップの下、シラバス英語化の必要性について全学で合意し、学部（全学共通科目を含む）・研究科（博士課程等一部科目を除く）の科目シラバスにおいて、シラバス英語化を実施。
- 海外大学との単位互換を行いやすく、学生の流動性をより高めるため、教務システムの国際化をさらに進めていく。

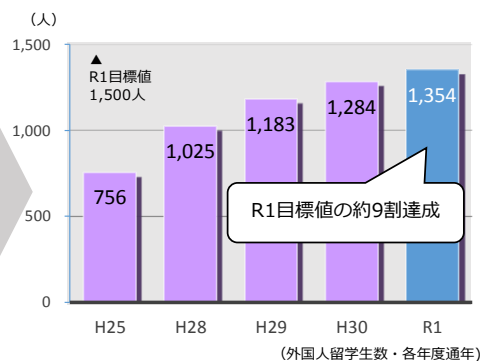


特に成果が上がった項目②

全学生に占める外国人留学生数 (TGU共通指標)

「成果を上げた具体的な取組」

- 協定校の拡大（H25：123校 → R2：226校）
- 国際連携大学院プログラム等、英語コースでの受入れ拡大
- 短期日本語プログラムや学部等による短期受入プログラムの拡大、実施部局へのインセンティブ付与による実施促進
- 出願・入学手続のWeb化による受入環境の充実
- 国際連携大学院プログラムの拡大や、正規学部留学生対象の新カリキュラム・入試制度により、多様な国・地域からの正規留学生受入れを目指す。

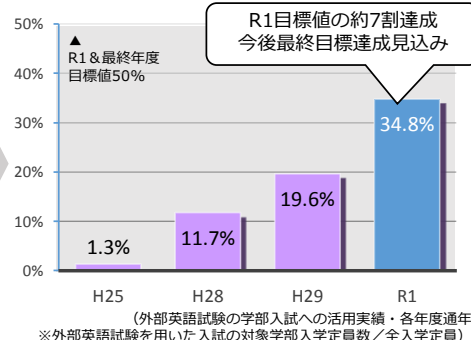


特に成果が上がった項目③

外部英語試験の学部入試への活用 (TGU共通指標)

「成果を上げた具体的な取組」

- 一般入試全学部日程（コロナリ方式）での導入（H28）
- 大学入試センター試験利用入試での導入（H30）
- 特別入試（自由選考試験 国際コース選考試験 外国人留学生入試等）等での導入拡大（～R2）
- 一般入試における本学独自の英語試験の原則廃止決定（R3～）
- 令和3年度入試から、すべての入試選抜で外部英語試験を活用することを決定したため、最終目標値を達成できる見込み。



その他、目標値を上回った主な項目

教職員に占める女性の割合	50.3% (R2)	*目標値 (R1) 50.0%
大学間交流に基づく受入れ外国人留学生数	689名 (R1)	*目標値 (R1) 325名
独自指標 TOEIC CLUB 900 (900点以上取得者)	267名 (R1)	*目標値 (R1) 180名

「陸前高田グローバルキャンパス」の活用

平成29年4月、若手大学と連携し、若手県陸前高田市に「陸前高田グローバルキャンパス」を開設した。同キャンパス内にサテライトを設置、同市民や国内外の学生・研究者、企業や行政関係者などの交流活動の拠点として活用し、毎年約5,000人以上の利用者を集めている。国際的な講演会・イベントの開催や、震災復興を課題テーマとする海外大学と連携したPBLプログラム「陸前高田プロジェクト」（本学学生とスタンフォード大学、香港大学及びシンガポール国立大学の学生が参加）を毎年実施するなど、地域連携・地域社会の国際化にも寄与している。

令和元年度、陸前高田サテライトの取組みが、若手の大学、報道機関、企業等で組織された「東北みらい創りサマースクール実行委員会」に評価され、震災復興支援活動において顕著な実績をあげている団体等に贈られる「東北みらい賞」を受賞した。

なお、本学では、平成15年以降「林業体験プログラム」を通じて同市と交流が続いている。



陸前高田プログラムの様子